

研究課題番号	5-1851
研究課題名	有機リン化合物曝露評価指標としての尿中ジアルキルリン酸の有効性の検証
研究実施期間	平成30年度～令和2年度
研究機関名	名古屋市立大学
研究代表者名	上島 通浩

1. 委員の指摘及び提言概要

DAPの親物質同定というチャレンジングな研究目標を掲げていることは評価できる。OP代謝物のノンターゲット分析の開発、マウスデータの活用などあらたな手法を開発して解析を行っており、親物質の解明に寄与する研究成果を挙げている。影膳方式のOP摂取量の調査結果も重要な成果である。これによりOPおよびDAPの曝露源として、飲食物以外の摂取経路の寄与が無視できない程度にある可能性も示唆されており、研究成果の環境行政への活用が期待される。しかし、尿中DAPと曝露源（飲食物）との関連が必ずしも明確にはなっておらず、エコチル調査において調べた尿中DAPからその親化合物を同定するには、まだ距離がありそうである。最終目標に向けてのストーリーを整理し、どの部分が大きな課題として残っているのかも明確にした方がよい。

2. 採点結果

評価ランク：A